

海外で育った母と子の記録（20）

Parenting

松本 康子

アメリカでは、中・高校への進学時期の Transition（移行）で、子どもが心身ともにトラブルを抱えやすい、と見ています。そのほとんどの場合において、家庭に原因があるとも考えられています。

< Transition と学校訪問 >

「毎年、通り一つ隔てた学校へ変わるだけなのに、きちんと道を渡りきれない子どもがいますから、家庭でのサポートが必要ですよ。」うまく Transition できない子どもをこのように表現し、Back to School Night に参加した新入生の保護者に向けて、学校長が注意を促したコメントです。

我が家の子ども達が通っていた現地校では、卒業間近に全員が進学先を訪問します。中・高校への進学時期は、心身ともに子どもの成長の Transition の時期で、それをうまく乗り切れないと、その後の学校や家庭生活で問題を抱えやすいと考えられているからです。学校訪問は、それを事前に緩和する措置の一つという、明確な目的を持って行われています。学校長の話は、子どもばかりでなく親も心の準備をなさい、ということなのでしょう。（以下は中学での話とします。）

一つに、小学校と違い、授業ごとにクラス・ルームを移動するという、校内での環境の変化があります。学校が始まってからの1週間は、道案内のために先生や先輩がいたるところに立っているらしい。簡単なことのように思えますが、毎年、迷子になったり、教室を見つけれなかったりする子ども達がけっこういるようです。私にそんな話をしながら、このような手助けをしてもらえると再確認し、子ども自身が安心するようです。実際に迷子になった経験から、学校生活に自信を失くしたケースがあるらしい。

それに、中学は必須科目がほとんどで選択肢がありません。は言っても、受けるクラスを自分で決める、履修登録が必要となります。必須と選択科目との授業時間数の兼ね合いを考

えなければなりません。子ども達は、学校訪問で基本的な説明を受け、家庭でいろいろ話し合うことになります。我が家の場合、私に聞いても分からないだろうと思ったのでしょうか、子どもから相談を受けた記憶がありませんが。

そして、生徒会やクラブなど、学校行事や運営に参加することで、授業以外の課外活動で忙しくなってきます。ご存知だと思いますが、成績表の中に Participation というのがあり、積極的にクラスの授業に参加しているかを評価するものです。それをレベル・アップして、教室から課外活動で実践する場へ広がり、リーダー・シップを培えるようにとの機会が増えます。アメリカの社会が求める人間作りの一つでしょうか。我が家の場合、現地校での活動がど

のようなものなのか、親から予備知識を得られません。積極的な性格ならまだしも、娘は周りの環境に乗り遅れないようにとすることで、精一杯。

< Parenting >

新入生の準備のための買い物をする頃から、我が家はどうかと、その家庭とは少し違うようだ、子どもは気づき始めます。友達のほとんどが、学校の先生と同じようなことを親から聞いたり、気を遣ってもらったりして、自然に学校の環境の変化に対応していくからです。

